



自ら掴む経営エッセンス!

(記事: いとばた稲毛) 渡部成夫 過去記事も読めます⇒<http://idoina.com>

2/12(火)

テーマ: 『二代目社長』

出席22社22名
(美浜17、他会3、非会員2)

講師: 埼玉県久喜市倫理法人会 理事 蓮実 久司 氏



Hasumi Hisashi

座右の銘「心の船の舵の取りよう」が伝わってきました。

偉大なる父・叔父をもつ二代目社長

二代目社長はボンボンだとか、苦勞を知らないと
思われがちだ。蓮実氏も、それで悔しい思いを
してきた。父からは、「お前は俺の土台の上
に立っている」と言われ、意思決定においても、最
終判断は父が下す場合が多かった。

蓮実氏は、「自分の給料を自分で決められるよ
うになった時、初めて社長になったと実感できま
した」という。

ただ蓮実氏の場合は、特殊かもしれない。倫理
という、いわば「死ぬまで続ける会」に、倫理研
究所理事の父と埼玉県会長の叔父がいるからだ。

誰よりも厳しい父。一般倫理との出会い

蓮実氏は、幼稚園から高校卒業までの間は暴れん坊だったので、暇さえあれば父に殴られていた。父は本気で叱る人で、痛さから失神したこともあった。また友人と学校をさぼった時などは、父は友人に対しても容赦なく殴ったという。今振り返れば父は、「子は親に反抗せず、親とのつながりをしっかりと意識することで、立派に成長する」と考えて、その実践をしていたのだと思う。

倫理との出会いは中学1年の時、当時40歳の父に連れられ、一般倫理に入会した。毎朝4時に起き、自分の部屋で正座をして、父を「おはようございます」で迎える約束をした。寝坊などすれば直ちに殴られるので、父の足音で自然に目が覚めるようになり、100日以上皆勤を3度達成することができた。

中学2年の時、競輪用の自転車欲しくて、父に相談した。父は「皆が持っているものではないのだから、自分で買え」と、新聞配達のアパートを許可してくれた。おかげで、中学3年には念願の自転車を作り上げたし、お小遣いも結構あった。「自分で稼いだ経験が自信になり、人の言うことが気にならなくなった」という。

18歳で心を入れ替え、頭を丸坊主にした。中央工学校で設計の勉強を始め、卒業後は父の経営する住宅販売の会社で、営業職に就いた。「社長のせがれは楽だ」と言われるのだけは嫌だったから、一生懸命頑張った。年間で6~7棟販売できれば合格点という時代に、3ヶ月で24棟も販売した。ダントツで関東No.1セールスマンだった。

2ヶ月間営業成績が上がらない時は、一般倫理を活用した。朝4時に起きて一般倫理に出る。入社して会社のトイレを全て掃除し、夜1時まで働く。この生活リズムになると、「全国でこんなに頑張っている営業マンはいない。トップは譲らないぞ」という信念が強固になり、「自然とお客様がどんどん入ってくる」ようになったという。

今、自分を振り返って

蓮実氏は、バブル崩壊で多額の借金と連帯保証を負い、18年間債権者に鍛えられてきて、今年やっと無借金経営への出口が見えてきた。「今までしてきた講話の原稿は、もう使えない。今の自分と全然違うから。それだけ成長した」という。

父に対しては、父の強い面、弱い面、寂しい面、色々な父を見てきて混乱しているが、自分の頑張りの中には、やはり父に褒めてもらいたい気持ちもあった。父を尊敬しているし、感謝している。また蓮実氏がいつも持ち歩く座右の銘は、食事中に母がぼろっと口にした言葉「浮くも沈むも可も不可も、心の船の舵の取りよう」だ。

最後に蓮実氏が倫理について、こう話してくれた。「これは倫理的でないと言っている人がいるが、自分はどうか考えてほしい。長年の癖を直すには、身につけたのと同じ年数が必要だ。倫理とは自分の内にある、自分が実践するもの」。

工学校時代からの親友である(株)新昭和の座間氏は、蓮実氏をこう見ている。「蓮実氏は、人のことに対して涙を流せる男です。私が25年勤めて役員になれた時、泣いてくれたのを忘れません。とても情が厚い。一生付き合っていきたい男です。」

次回 第865回MS! 2/19(火)6時~7時+朝食会 ホテルニューオータニ幕張(043-297-7777)

テーマ: 『倫理に学ぶ経営』

講師: 参事 塩貝 博 氏

できるできるやればできる!

明るく楽しくなければ倫理じゃない!

・会員120社・MS30名以上・美浜を美しく